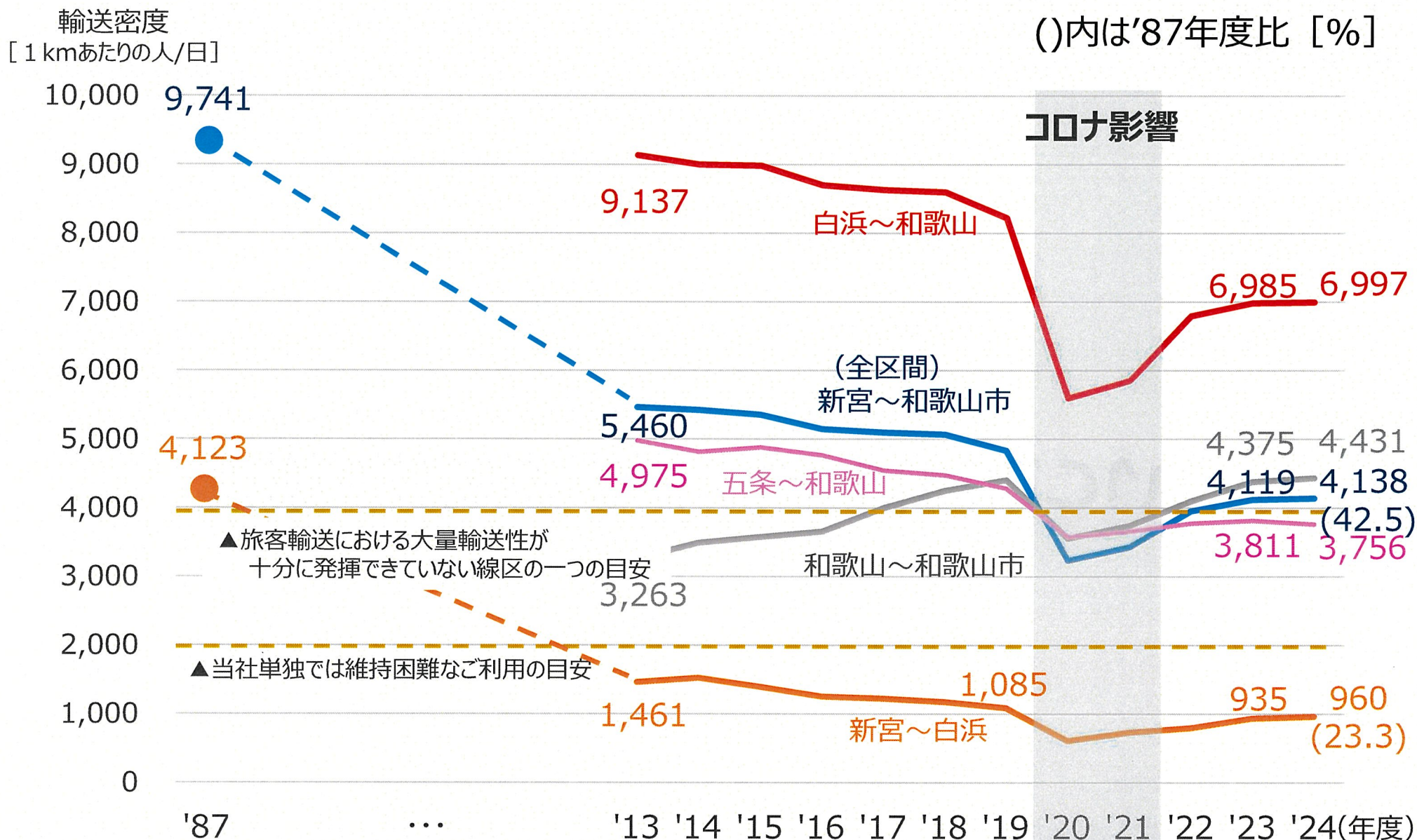


和歌山エリアのご利用状況について

2026年6月
JR西日本 和歌山支社

和歌山支社エリアのご利用状況～輸送密度～

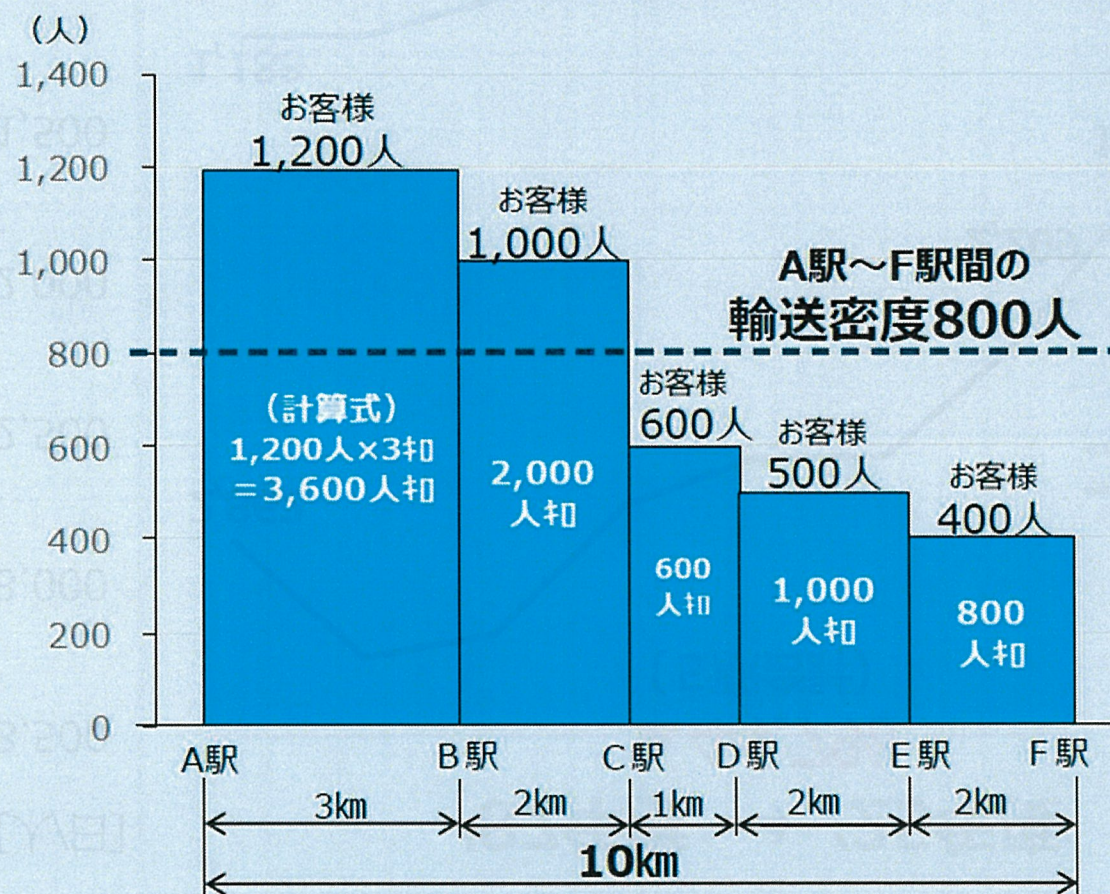
1



‘87年度以降で比較すると、最も減少率が大いのが新宮～白浜間であり、23.3%の水準。また和歌山線五条～和歌山間についても4,000人を下回る水準となっている。

○輸送効率の実績を示す指標、線区全体のお客様のご利用状況には、駅間ごとに凹凸があるのが一般的。この凹凸をならした、区間全体の1日1kmあたりの平均人員を「輸送密度（平均通過人員）」という。

(例) A駅～F駅の駅間別輸送人員（1日あたり）



線区合計
8,000人km

÷

10km

＝

輸送密度
800人

橋本市内各駅の乗車人員の推移

3

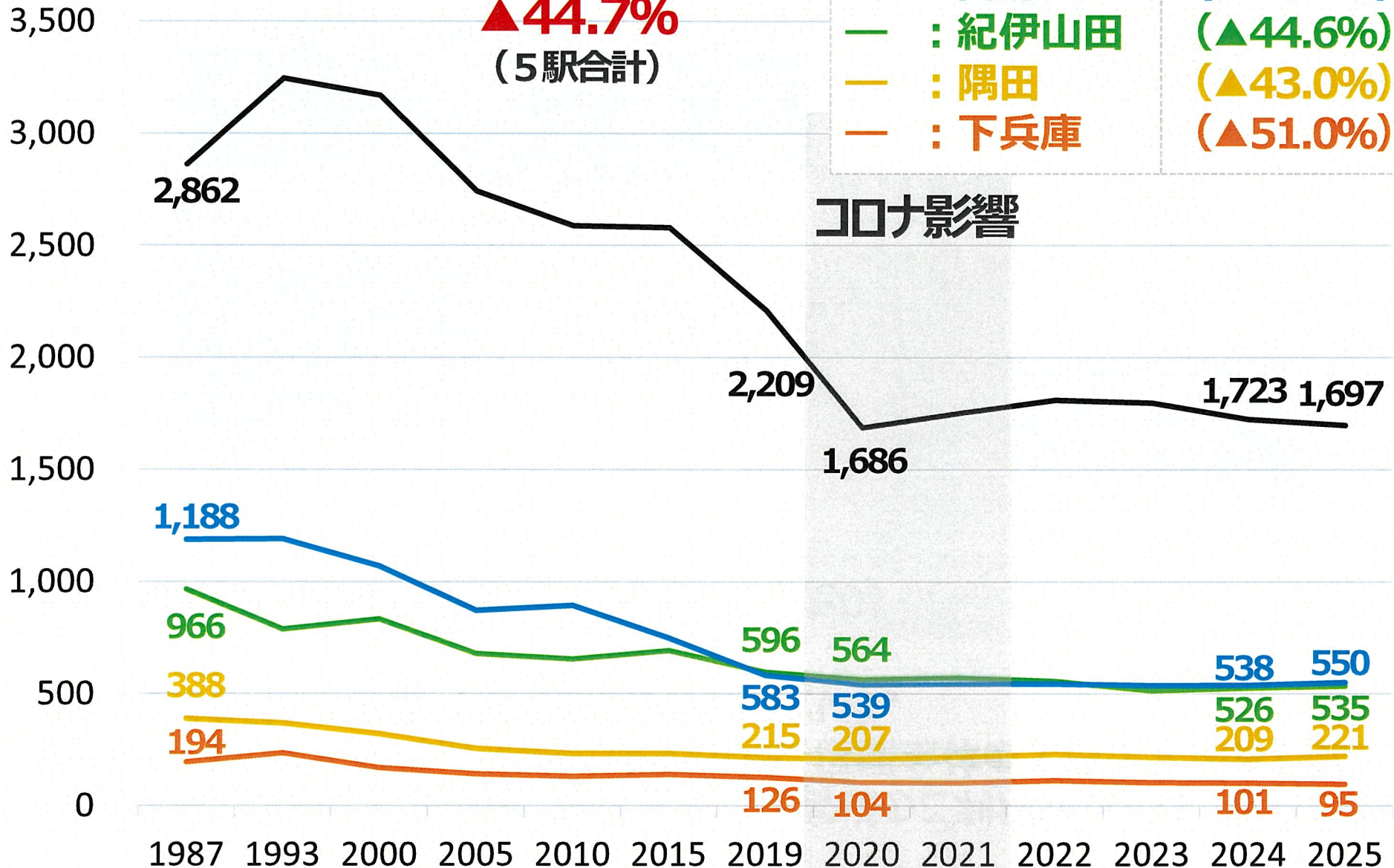
[人/日]

'87年度 ⇒ '25年度

▲44.7%
(5駅合計)

— : 橋本	(▲40.7%)
— : 高野口	(▲53.7%)
— : 紀伊山田	(▲44.6%)
— : 隅田	(▲43.0%)
— : 下兵庫	(▲51.0%)

コロナ影響



(年度)

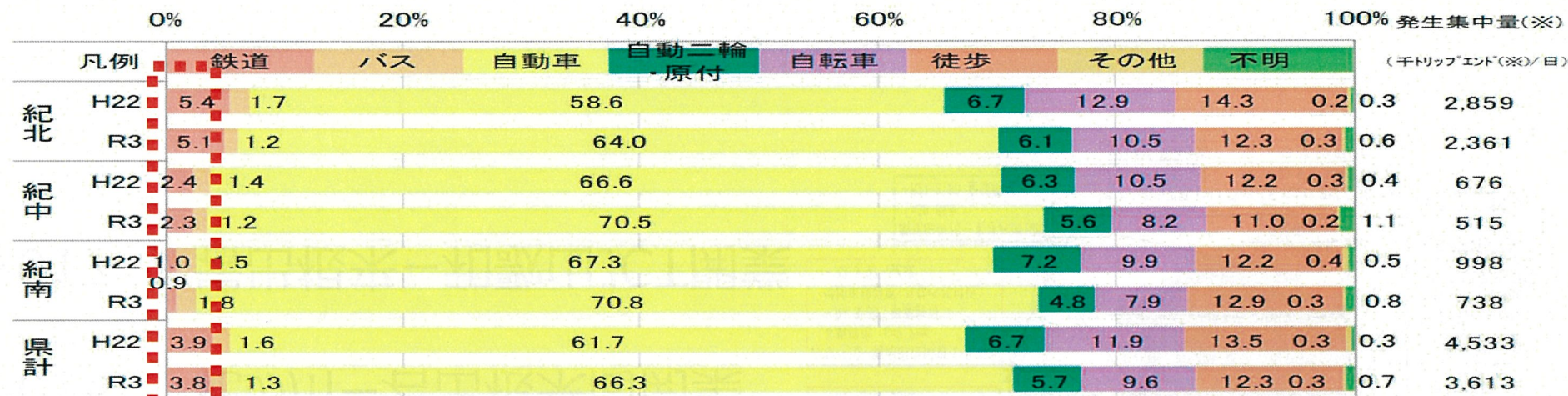
紀北エリアの交通分担率（和歌山県地域公共交通計画より）

4

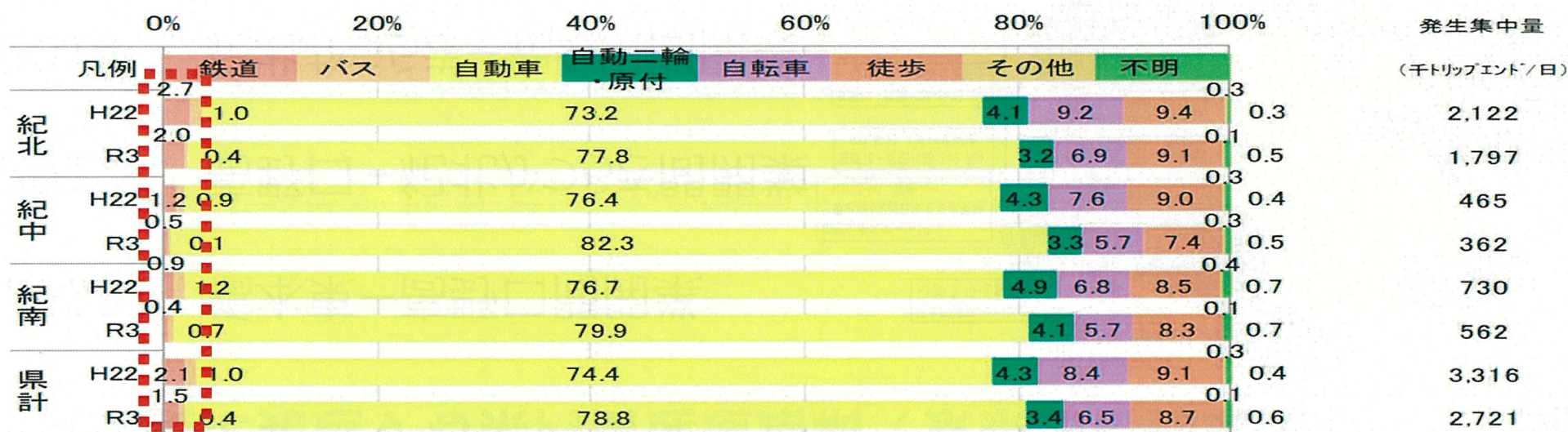
紀北エリアの鉄道の交通分担率は、平日が5.1%、休日が2.0%と2010年より減少。
特に休日の同分担率は平日の半分以下となっている。

鉄道・バスの交通分担率を高める（＝鉄道を選択いただく）ことが重要。

<平日>



<休日>



出典：近畿圏パーソントリップ調査（2010、2021年）

- 2009 橋本東－高野口間開業
- 2012 高野口－紀北かつらぎ間開業
- 2014 紀北かつらぎ－紀の川間開業
- 2015 紀の川－岩出根来間開業
- 2017 岩出根来－和歌山JCT開業

